

特定非営利活動法人日本自立型人間育成協会

定款

第1章 総則

(名称)

第1条 この法人は、特定非営利活動法人日本自立型人間育成協会という。

(事務所)

第2条 この法人は、主たる事務所を東京都品川区東五反田一丁目25番11号に置く。

(目的)

第3条 この法人は、保育園・幼稚園・小学校・中学校に在籍する乳幼児・児童・生徒に対して、将来的な自立のサポートや日本の予防医療、健康教育に関する事業を行い、子どもたちの自己肯定感を向上させ、地域社会全体の活性化に寄与することを目的とする。

(特定非営利活動の種類)

第4条 この法人は、前条の目的を達成するため、次の種類の特定非営利活動を行う。

- (1) 保健、医療又は福祉の増進を図る活動
- (2) 子どもの健全育成を図る活動
- (3) 職業能力の開発又は雇用機会の拡充を支援する活動
- (4) 社会教育の推進を図る活動
- (5) 前各号に掲げる活動を行う団体の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助の活動

(事業の種類)

第5条 この法人は、第3条の目的を達成するため、特定非営利活動に係る事業として、次の事業を行う。

- (1) 教育活動費補助事業
- (2) 地域ネットワークづくり事業
- (3) 社会教育事業
- (4) 人材育成事業
- (5) その他目的を達成するために必要な事業

~~2 この法人は、次のその他の事業を行う。~~

~~子どもの健全育成のための地域講演会事業等の実施~~

~~3 前項に掲げる事業は、第1項に掲げる事業に支障がない限り行うものとし、その利益は、第1項に掲げる事業に充てるものとする。~~

第2章 会 員

(種 別)

第6条 この法人の会員は、次の4種とし、正会員をもって特定非営利活動促進法（以下「法」という。）上の社員とする。

- (1) 正会員 この法人の目的に賛同して入会した個人及び団体及び法人
- (2) 賛助会員 この法人の事業を賛助するために入会した個人及び団体
- (3) 協力会員 この法人の事業に協力するために入会した個人及び団体
- (4) 名誉会員 この法人の事業に賛同する著名人

(入 会)

第7条 会員の入会について、特に条件は定めない。

- 2 会員として入会しようとするものは、理事長が別に定める入会申込書により、理事長に申し込むものとする。
- 3 理事長は、前項の申し込みがあったとき、正当な理由がない限り、入会を認めなければならない。
- 4 理事長は、第2項のもの入会を認めないときは、速やかに、理由を付した書面をもって本人にその旨を通知しなければならない。

(入会金及び会費)

第8条 会員は、総会において別に定める入会金及び会費を納入しなければならない。

(会員の資格の喪失)

第9条 会員が次の各号の一に該当する場合には、その資格を喪失する。

- (1) 退会届の提出をしたとき。
- (2) 本人が死亡し、若しくは失そう宣告を受け、又は会員である団体が消滅したとき。
- (3) 継続して2年以上会費を滞納したとき。
- (4) 除名されたとき。

(退 会)

第10条 会員は、理事長が別に定める退会届を理事長に提出して、任意に退会することができる。

(除 名)

第11条 会員が次の各号の一に該当する場合には、理事会の議決により、これを除名することができる。

- (1) この定款に違反したとき。
 - (2) この法人の名誉を傷つけ、又は目的に反する行為をしたとき。
- 2 前項の規定により会員を除名しようとする場合は、議決の前に当該会員に

弁明の機会を与えなければならない。

(入会金及び会費の不返還)

第12条 既に納入した入会金、会費は、返還しない。

第3章 役員

(種別及び定数)

第13条 この法人に、次の役員を置く。

- (1) 理事3人以上
 - (2) 監事1人以上
- 2 理事のうち1人を理事長、2人を副理事長とする。

(選任等)

第14条 理事及び監事は、総会において選任する。

- 2 理事長及び副理事長は、理事の互選とする。
- 3 役員のうちには、それぞれの役員について、その配偶者若しくは三親等以内の親族が1人を超えて含まれ、又は当該役員並びにその配偶者及び三親等以内の親族が役員の総数の3分の1を超えて含まれることになってはならない。
- 4 法第20条各号のいずれかに該当する者は、この法人の役員になることができない。
- 5 監事は、理事又はこの法人の職員を兼ねてはならない。

(職務)

第15条 理事長は、この法人を代表し、その業務を総理する。

- 2 副理事長は、理事長を補佐し、理事長に事故があるとき又は理事長が欠けたときは、その職務を代行する。理事長以外の理事は、この法人の業務についてこの法人を代表しない。
- 3 理事は、理事会を構成し、この定款の定め及び総会または理事会の議決に基づき、この法人の業務を執行する。
- 4 監事は、次に掲げる職務を行う。
 - (1) 理事の業務執行の状況を監査すること。
 - (2) この法人の財産の状況を監査すること。
 - (3) 前2号の規定による監査の結果、この法人の業務又は財産に関し不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実があることを発見した場合には、これを総会又は所轄庁に報告すること。
 - (4) 前号の報告をするために必要がある場合には、総会を招集すること。
 - (5) 理事の業務執行の状況又はこの法人の財産の状況について、理事に意見を述べること。

(任期等)

第16条 役員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 補欠のため、又は増員により就任した役員の任期は、それぞれの前任者又は現任者の任期の残存期間とする。

3 役員は、辞任又は任期満了後においても、後任者が就任するまでは、その職務を行わなければならない。

(欠員補充)

第17条 理事又は監事のうち、その定数の3分の1を超える者が欠けたときは、遅滞なくこれを補充しなければならない。

(解任)

第18条 役員が次の各号の一に該当する場合には、総会の議決により、これを解任することができる。

(1) 心身の故障のため、職務の遂行に堪えないと認められるとき。

(2) 職務上の義務違反その他役員としてふさわしくない行為があったとき。

2 前項の規定により役員を解任しようとする場合は、議決の前に当該役員に弁明の機会を与えなければならない。

(職員)

第19条 この法人に、事務局長その他の職員を置く。

2 職員は、理事長が任免する。

(報酬等)

第20条 役員は、その総数の3分の1以下の範囲内で報酬を受けることができる。

2 役員には、その職務を執行するために要した費用を弁償することができる。

3 前2項に関し必要な事項は、総会の議決を経て、理事長が別に定める。

第4章 会議

(種別)

第21条 この法人の会議は、総会及び理事会の2種とする。

2 総会は、通常総会及び臨時総会とする。

(総会の構成)

第22条 総会は、正会員をもって構成する。

(総会の権能)

第23条 総会は、以下の事項について議決する。

(1) 定款の変更

- (2) 解散及び合併
- (3) 事業計画及び予算並びにその変更
- (4) 事業報告及び決算
- (5) 役員の選任及び解任、職務及び報酬
- (6) 入会金及び会費の額
- (7) 借入金（その事業年度内の収益をもって償還する短期借入金を除く。第49条において同じ。）その他新たな義務の負担及び権利の放棄
- (8) 事務局の組織及び運営
- (9) その他運営に関する重要事項

（総会の開催）

第24条 通常総会は、毎年1回開催する。

2 臨時総会は、次に掲げる場合に開催する。

- (1) 理事会が必要と認め、招集の請求をしたとき。
- (2) 正会員総数の5分の1以上から会議の目的を記載した書面又は電磁的方法により招集の請求があったとき。
- (3) 監事が第15条第4項第4号の規定に基づいて招集するとき。

（総会の招集）

第25条 総会は、前条第2項第3号の場合を除いて、理事長が招集する。

2 理事長は、前条第2項第1号及び第2号の規定による請求があったときは、その日から30日以内に臨時総会を招集しなければならない。

3 総会を招集する場合には、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面又は電磁的方法により、開催の日の少なくとも5日前までに通知しなければならない。

（総会の議長）

第26条 総会の議長は、その総会に出席した正会員の中から選出する。

（総会の定足数）

第27条 総会は、正会員総数の2分の1以上の出席がなければ開会することはできない。

（総会の議決）

第28条 総会における議決事項は、第25条第3項の規定によってあらかじめ通知した事項とする。

2 総会の議事は、この定款に規定するもののほか、出席した正会員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

3 理事又は正会員が総会の目的である事項について提案した場合において、正会員の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、当

該提案を可決する旨の総会の決議があったものとみなす。

(総会での表決権等)

第29条 各正会員の表決権は平等なものとする。

- 2 やむを得ない理由により総会に出席できない正会員は、あらかじめ通知された事項について、書面又は電磁的方法をもって表決し、又は他の正会員を代理人として表決を委任することができる。
- 3 前項の規定により表決した正会員は、前2条及び次条第1項の規定の適用については出席したものとみなす。
- 4 総会の議決について、特別の利害関係を有する正会員は、その議事の議決に加わることができない。

(総会の議事録)

第30条 総会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

- (1) 日時及び場所
 - (2) 正会員総数及び出席者数（書面又は電磁的方法による表決者又は表決委任者がある場合にあっては、その数を付記すること。）
 - (3) 審議事項
 - (4) 議事の経過の概要及び議決の結果
 - (5) 議事録署名人の選任に関する事項
- 2 議事録には、議長及び総会において選任された議事録署名人2名が、記名押印又は署名しなければならない。
 - 3 前2項の規定にかかわらず、正会員全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたことにより、総会の決議があったとみなされた場合においては、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。
 - (1) 総会の決議があったものとみなされた事項の内容
 - (2) 前号の事項の提案をした者の氏名又は名称
 - (3) 総会の決議があったものとみなされた日
 - (4) 議事録の作成に係る職務を行った者の氏名

(理事会の構成)

第31条 理事会は、理事をもって構成する。

(理事会の権能)

第32条 理事会は、この定款に別に定める事項のほか、次の事項を議決する。

- (1) 総会に付議すべき事項
- (2) 総会の議決した事項の執行に関する事項
- (3) その他総会の議決を要しない業務の執行に関する事項

(理事会の開催)

第33条 理事会は、次に掲げる場合に開催する。

- (1) 理事長が必要と認めたとき。
- (2) 理事総数の2分の1以上から理事会の目的である事項を記載した書面により招集の請求があったとき。

(理事会の招集)

第34条 理事会は、理事長が招集する。

- 2 理事長は、前条第2号の場合にはその日から14日以内に理事会を招集しなければならない。
- 3 理事会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面又は電磁的方法により、開催の日の少なくとも5日前までに通知しなければならない。

(理事会の議長)

第35条 理事会の議長は、理事長がこれにあたる。

(理事会の議決)

第36条 理事会における議決事項は、第34条第3項の規定によってあらかじめ通知した事項とする。

- 2 理事会の議事は、理事総数の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(理事会の表決権等)

第37条 各理事の表決権は、平等なるものとする。

- 2 やむを得ない理由のため理事会に出席できない理事は、あらかじめ通知された事項について書面又は電磁的方法をもって表決することができる。
- 3 前項の規定により表決した理事は、前条及び次条第1項の適用については、理事会に出席したものとみなす。
- 4 理事会の議決について、特別の利害関係を有する理事は、その議事の議決に加わることができない。

(理事会の議事録)

第38条 理事会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

- (1) 日時及び場所
- (2) 理事総数、出席者数及び出席者氏名（書面表決者にあつては、その旨を付記すること。）
- (3) 審議事項
- (4) 議事の経過の概要及び議決の結果

- (5) 議事録署名人の選任に関する事項
- 2 議事録には、議長及びその会議において選任された議事録署名人2人が記名押印又は署名しなければならない。

第5章 資産

(構成)

第39条 この法人の資産は、次の各号に掲げるものをもって構成する。

- (1) 設立当初の財産目録に記載された資産
- (2) 入会金及び会費
- (3) 寄付金品
- (4) 財産から生じる収益
- (5) 事業に伴う収益
- (6) その他の収益

(区分)

第40条 この法人の資産は、特定非営利活動に係る事業に関する資産、~~その他の事業に関する資産の2種とする。~~

(管理)

第41条 この法人の資産は、理事長が管理し、その方法は理事会の議決を経て、理事長が別に定める。

第6章 会計

(会計の原則)

第42条 この法人の会計は、法第27条各号に掲げる原則に従って行わなければならない。

(会計区分)

第43条 この法人の会計は、次のとおり区分する。

- (1) 特定非営利活動に係る事業会計
- ~~(2) その他の事業会計~~

(事業年度)

第44条 この法人の事業年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(事業計画及び予算)

第45条 この法人の事業計画及びこれに伴う予算は、毎事業年度ごとに理事長が作成し、総会の議決を経なければならない。

(暫定予算)

第46条 前条の規定にかかわらず、やむを得ない理由により予算が成立しないときは、理事長は、理事会の議決を経て、予算成立の日まで前事業年度の予算に準じ収益費用を講じることができる。

2 前項の収益費用は、新たに成立した予算の収益費用とみなす。

(予算の追加及び更正)

第47条 予算成立後にやむを得ない事由が生じたときは、総会の議決を経て、既定予算の追加又は更正をすることができる。

(事業報告及び決算)

第48条 この法人の事業報告書、活動計算書、貸借対照表及び財産目録等決算に関する書類は、毎事業年度終了後、速やかに、理事長が作成し、監事の監査を受け、総会の議決を経なければならない。

2 決算上剰余金を生じたときは、次事業年度に繰り越すものとする。

(臨機の措置)

第49条 予算をもって定めるもののほか、借入金の借入れその他新たな義務の負担をし、又は権利の放棄をしようとするときは、総会の議決を経なければならない。

第7章 定款の変更、解散及び合併

(定款の変更)

第50条 この法人が定款を変更しようとするときは、総会に出席した正会員の4分の3以上の多数による議決を経、かつ、法第25条第3項に規定する事項については所轄庁の認証を得なければならない。

2 この法人の定款を変更(前項の規定により所轄庁の認証を得なければならない事項を除く)したときは、所轄庁に届けなければならない。

(解散)

第51条 この法人は、次に掲げる事由により解散する。

- (1) 総会の決議
- (2) 目的とする特定非営利活動に係る事業の成功の不能
- (3) 正会員の欠亡
- (4) 合併
- (5) 破産手続開始の決定
- (6) 所轄庁による設立の認証の取消し

2 前項第1号の事由によりこの法人が解散するときは、正会員総数の4分の3以上の決議を得なければならない。

- 3 第1項第2号の事由により解散するときは、所轄庁の認定を得なければならない。

(残余財産の帰属)

第52条 この法人が解散（合併又は破産手続開始の決定による解散を除く）したときに残存する財産は、法第11条第3項に掲げる者のうち、理事会において議決したものに譲渡するものとする。

(合併)

第53条 この法人が合併しようとするときは、総会において正会員総数の4分の3以上の議決を経、かつ、所轄庁の認証を得なければならない。

第8章 公告の方法

(公告の方法)

第54条 この法人の公告は、この法人の掲示場に掲示するとともに、官報に掲載して行う。

ただし、法第28条の2第1項に規定する貸借対照表の公告については、電子公告に掲載して行う。事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告ができない場合は官報に掲載して行う。

第9章 事務局

(事務局の設置)

第55条 この法人に、この法人の事務を処理するため、事務局を設置する。

- 2 事務局には、事務局長及び必要な職員を置く。

(職員の任免)

第56条 事務局長及び職員の任免は、理事長が行う。

(組織及び運営)

第57条 事務局の組織及び運営に関し必要な事項は、総会の議決を経て、理事長が別に定める。

第10章 雑則

(細則)

第58条 この定款の施行について必要な細則は、理事会の議決を経て、理事長がこれを定める。

附則

- 1 この定款は、この法人の成立の日から施行する。
- 2 この法人の設立当初の役員は、次のとおりとする。

設立当初の役員

役職名	氏名
理事長	桑原 のり子
専務理事	本多 隆子
理 事	金子 理沙
同	上野 由佳子
同	松井 亜樹子
監 事	二本柳 健

- 3 この法人の設立当初の役員任期は、第16条第1項の規定にかかわらず、この法人の成立の日から2018年9月30日までとする。
- 4 この法人の設立当初の事業年度は、第43条の規定にかかわらず、この法人の成立の日から2017年7月31日までとする。
- 5 この法人の設立当初の事業計画及び予算は、第44条の規定にかかわらず、設立総会の定めるところによる。

この法人の設立当初の入会金及び会費は、第8条の規定にかかわらず、次に掲げる額とする。

- | | | |
|---------|------|---------|
| (1) 入会金 | 正会員 | 10,000円 |
| | 賛助会員 | 30,000円 |
| (2) 年会費 | 正会員 | 3,000円 |
| | 賛助会員 | 10,000円 |

令和6年度（2024年度）

事業計画書

特定非営利活動法人 日本自立型人間育成協会

1 事業実施の方針

- ・令和6年度（2024年度）の事業年度は、以下の事業を確実に実施することを目標とする。
- ・本事業の対象地域・各園校への周知・広報を実施する。
- ・地域の方を対象として講演会を企画し実施する。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

(事業費の総費用【2950】千円)

定款に記載された事業名	事業内容	日時	場所	従事者人数	受益対象者範囲	受益対象者人数	事業費(千円)
教育支援事業	医療支援の活動をする中で、幼少期からの健康教育が必要だと考え、定款を変更して活動の場を広げたいと思ったため。	通年	各園・校	3人	園児・幼児 児童・生徒 保護者など	700人	1,000
教育活動費補助事業	学校講演を開催し、児童生徒の自己肯定感の向上を目指す。	通年	各園・校	3人	園児・幼児・児童・生徒・その保護者など	700人	1,000
地域ネットワークづくり事業	各地の教員のネットワークを築き、志の高い教員を支える	通年	各地	3人	教育関係者	50人	300
社会教育事業	子育て中の保護者向けに自己肯定感を高める方法について研修機会を提供する	通年	各地	3人	一般	100人	500
社会教育事業	地域の成人の方を対象に講演会を実施する	年1回 11月	板野町さくらホール	5人	一般	100人	50
人材育成事業	自己肯定感を高める講演講師の育成。	通年	各地	2人	講演講師希望者	10人	100

(2) その他の事業

(事業費の総費用【 】千円)

定款に記載された事業名	事業内容	日時	場所	従事者人数	事業費(千円)

令和7年度（2025年度）

事業計画書

特定非営利活動法人 日本自立型人間育成協会

1 事業実施の方針

- ・令和7年度（2025年度）の事業年度は、以下の事業を確実に実施することを目標とする。
- ・本事業の対象地域・各園校への周知・広報を実施する。
- ・地域の方を対象として講演会を企画し実施する。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

(事業費の総費用【6300】千円)

定款に記載された事業名	事業内容	日時	場所	従事者人数	受益対象者範囲	受益対象者人数	事業費(千円)
教育支援事業	医療支援の活動をする中で、幼少期からの健康教育が必要だと考え、定款を変更して活動の場を広げたいと思ったため。	通年	各園・校	3人	園児・幼児 児童・生徒 保護者など	1000人	1,500
教育活動費補助事業	学校講演を通し、園児・幼児・児童・生徒の自己肯定感を高める。	通年	各園・校	3人	園児・幼児・児童・生徒・その保護者など	1000人	1,500
地域ネットワークづくり事業	各地の教員のネットワークを築き、志の高い教員を支える	通年	各地	3人	教育関係者	200人	1,000
社会教育事業	子育て中の保護者向けに自己肯定感を高める方法について研修機会を提供する	通年	各地	3人	一般	400人	2,000
社会教育事業	地域の成人の方を対象に講演会を実施する	年1回 11月	板野町さくらホール	5人	一般	50人	100
人材育成事業	自己肯定感を高める講演講師の育成	通年	各地	2人	講演講師希望者	10人	200

(2) その他の事業

(事業費の総費用【50】千円)

定款に記載された事業名	事業内容	日時	場所	従事者人数	事業費(千円)

令和 6 年度 (2024年度) 活動予算書 (その他事業がない場合)

特定非営利活動法人 日本自立型人間育成協会

(単位:円)

科	目	金額	小計・合計
(A) 経常収益			
1 受取会費			700,000
正会員受取会費		100,000	
賛助会員受取会費		600,000	
2 受取寄附金			1,000,000
受取寄附金		1,000,000	
施設等受入評価益			
3 受取助成金等			0
受取補助金		0	
4 事業収益			150,000
教育活動費補助事業収益		50,000	
地域ネットワークづくり事業収益		50,000	
社会教育事業収益			
人材育成事業収益		50,000	
5 その他の収益			0
受取利息			
経常収益計			1,850,000
(B) 経常費用			
1 事業費			
(1) 人件費			0
給料手当			
役員報酬			
退職給付費用			
福利厚生費			
(2) その他経費			750,000
会議費		50,000	
旅費交通費		400,000	
施設等評価費用		200,000	
減価償却費			
印刷製本費		100,000	
事業費計			750,000
2 管理費			
(1) 人件費			0
役員報酬			
給料手当			
退職給付費用			
福利厚生費			
(2) その他経費			530,000
消耗品費		10,000	
水道光熱費		20,000	
通信運搬費		100,000	
地代家賃		300,000	
旅費交通費		100,000	
減価償却費			
管理費計			530,000
経常費用計			1,280,000
当期経常増減額 (A) - (B) . . . ①			570,000
(C) 経常外収益			
固定資産売却益			
過年度損益修正益			
経常外収益計			0
(D) 経常外費用			
固定資産売却損			
災害損失			
過年度損益修正損			
経常外費用計			0
当期経常外増減額 (C) - (D) . . . ②			0
税引前当期正味財産増減額 ①+② . . . ③			570,000
法人税、住民税及び事業税 . . . ④			
前期繰越正味財産額 . . . ⑤			
次期繰越正味財産額 ③-④+⑤			570,000

令和 7 年度（2025年度） 活動予算書（その他事業がない場合）

特定非営利活動法人 日本自立型人間育成協会

（単位：円）

科 目	金 額	小 計・合 計
(A) 経常収益		
1 受取会費 正会員受取会費 賛助会員受取会費	100,000 700,000	800,000
2 受取寄附金 受取寄附金 施設等受入評価益	1,500,000	1,500,000
3 受取助成金等 受取補助金	0	0
4 事業収益 教育活動費補助事業収益 地域ネットワークづくり事業収益 社会教育事業収益 人材育成事業収益	200,000 100,000 200,000	500,000
5 その他の収益 受取利息		0
経常収益計		2,800,000
(B) 経常費用		
1 事業費		
(1) 人件費 給料手当 役員報酬 退職給付費用 福利厚生費	200,000	200,000
(2) その他経費 会議費 旅費交通費 施設等評価費用 減価償却費 印刷製本費	100,000 400,000 100,000	600,000
事業費計		800,000
2 管理費		
(1) 人件費 役員報酬 給料手当 退職給付費用 福利厚生費		0
(2) その他経費 消耗品費 水道光熱費 通信運搬費 地代家賃 旅費交通費 減価償却費	50,000 30,000 100,000 300,000 100,000	580,000
管理費計		580,000
経常費用計		1,380,000
当期経常増減額 (A) - (B) . . . ①		1,420,000
(C) 経常外収益		
固定資産売却益 過年度損益修正益		0
経常外収益計		0
(D) 経常外費用		
固定資産売却損 災害損失 過年度損益修正損		0
経常外費用計		0
当期経常外増減額 (C) - (D) . . . ②		0
税引前当期正味財産増減額 ①+② . . . ③		1,420,000
法人税、住民税及び事業税 . . . ④ 前期繰越正味財産額 . . . ⑤		
次期繰越正味財産額 ③-④+⑤		1,420,000